

令和2年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

【事業総括】

令和2年度の入館者数は、339,855人で前年比63.7%と大幅な減少となりました。4月18日から5月17日までの臨時休館を含め、コロナ禍の影響を大きく受けた形となりました。

ふくしま海洋科学館の魅力の一つとなっている多様な体験プログラムの開催は、感染拡大防止の観点から中止せざるを得ない状況が続きました。しかし、夏休み以降は、屋外の展示施設を活用したプログラムの展開やオンラインでの学習機会の提供など、自然への扉を開く体験的学習の場としての機能を堅持しました。

また、不要不急の外出や県境をまたぐ往来の自粛要請などの措置により、生物の収集活動にも支障が出ましたが、全国の感染状況を見つつ、採集先の漁師をはじめ、現地の皆さまの最大限の協力の下、必要最小限の採集活動で展示を維持することができました。さらには、11年ぶりにバショウカジキの展示を実現することができました。

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館では、福島県内の希少淡水魚の保全活動及び参加体験型的水族館として、教育普及活動事業を展開しました。

- 1 黒潮水槽では、友好提携園館である新潟市水族館と佐渡でバショウカジキを収集し、展示を行いました。
- 2 親潮アイスボックスでは、2020年6月に新種記載されたモユククサウオの標本展示、また2021年3月に当館で人工授精に成功した深海魚アバチャンの幼魚の展示を開始しました。
- 3 水生生物保全センターでは、東海大学との共同研究として、ラブカはじめとする深海性魚類の飼育実験を行いました。
- 4 県内希少淡水生物であるシナイモツゴやゲンゴロウ類などの繁殖を行った他、域内保全の基礎資料としての県内淡水生物の生息地調査を行いました。また、県農村振興課の要請で「田んぼの学校」の講師を4回実施しました。
- 5 ユーラシアカワウソが2個体を出産し、「アキヨ」「ヨシ」と命名しました。
- 6 6月にホンドタヌキが3頭を出産し、10月には他動物園よりニホンアナグマ2頭を搬入しました。また、10月14日にニホンアナグマ・ホンドタヌキ舎を新たにオープンしました。
- 7 新潟市水族館と、ROVを使ったアカムツ調査や生物交換を行いました。
- 8 北の海の家・海鳥のコーナーでは、ゴマファザラシが1頭を出産しました。
- 9 海洋生物の放射能汚染調査に取り組み、その結果を館内展示において情報提供を行いました。また、金沢大学、木戸川漁業協同組合との共同調査を継続して行いました。

- 10 コロナ禍のなか、学校教育を支援するために感染症対策に留意しながら館内学習プログラムや移動水族館を開催し、当館の学校利用の促進を図りました。また、館内の常設プログラムとしては、感染症対策を講じることで実施可能な釣り体験や缶詰づくり体験、エサやり体験等を開催しました。
- 11 誘客と来館者サービス向上のため、さまざまなイベントや企画を実施しました。
- 12 新型コロナウイルス感染症の流行により、シーラカンス調査活動は実施できませんでした。
- 13 いなわしろカワセミ水族館では、1月6日から福島県川内村で発見した新種のヒラサワツブゲンゴロウの世界初展示を開始しました。
- 14 いなわしろカワセミ水族館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月11日～5月31日の間休館しました。

【事業内容】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 水槽展示及び生物の飼育状況

令和2年度末時点での展示は以下のとおりです。

① 水槽数

本館	113槽
B I O B I O かつぱの里	1槽
蛇の目ビーチ	1槽
わくわく里山縄文の里	2槽
アクアマリンえっぐ	28槽
金魚館	8槽
合計	153槽

② 生物の飼育状況

哺乳類	14種	104点
鳥類	8種	35点
爬虫類	7種	9点
両生類	12種	476点
魚類	428種	29,692点
昆虫	12種	97点
無脊椎	289種	14,126点
植物	500種	約20,000点
金魚	61品種	882点
合計	1270種	64,539点
	61品種	882点

(2) 生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入、輸送

- ① 淡水生物採集
オイカワ、イトヨ他県内生物採集・熱帯生物の購入
 - ② 沿岸生物採集
福島県海洋研究センター調査船乗船採集、(深海生物)
福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンボ類他を採集
 - ③ 北方系生物採集:北海道オホーツク海沿岸
ニュードウカジカ、ハダカカメガイ、ナメダンゴ等の冷水系生物を採集
 - ④ 南方系生物採集
マイワシ、バショウカジキ、ギンカガミを採集
 - ⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集
クマササハナムロ、チンアナゴ他熱帯魚、コモチサヨリ等を採集
 - ⑥ 植物: 県内採集でシュンラン等・ラン(購入)
 - ⑦ ユーラシアカワウソ繁殖(雄2頭)
 - ⑧ エトピリカ繁殖(雄1羽)
 - ⑨ ウミガラス繁殖(雄1羽)
 - ⑩ ゴマフアザラシ繁殖(雄1頭)
 - ⑪ フェネック繁殖(雄1頭)
 - ⑫ ホンドタヌキ繁殖(雄3頭)
- (3) 南方系生物蓄養事業
カツオを蓄養・輸送・搬入(奄美大島)、
ハガツオ、マルソウダ、ヒラソウダを蓄養・輸送・搬入(串本)
- (4) 水生生物保全センター運営事業
- ① 浮遊卵の採集、研究(串本分館)
 - ② シナイモツゴ、ゲンゴロウ等の繁殖研究
 - ③ 駿河湾ROV調査
 - ④ サンマやラブカ他の飼育調査研究
- (5) 飼育生物管理事業
本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及び飼育管理

2 移動水族館事業

主催者要請に応じ、移動水族館専用車(通称:アクアラバン)を派遣し、各地域のイベントや県内外の文化施設のイベントに出展。

海の生物に親しむ機会を提供し、当館への興味、関心を高めてもらうこと(営業・PR活動・広報宣伝)と併せて、開催地の地域振興(地域交流)に貢献。

出展回数	5回	(令和元年度対比 31.3% 11回減)
見学者数	4,685人	(令和元年度対比 14.7% 27,297人減)

3 研究交流事業

(1) 学会・研究会等

① 令和2年6月

「A new species of *Elastoviscous* (Cottoidei: Liparidae) from the North Pacific with an emended diagnosis of the genus」(学術論文 Ichthyological Research)

② 令和2年9月

「日本におけるオウサマゲンゴロウモドキの生息域外保全への挑戦」日本甲

虫学会誌

③令和2年10月

「Development of microsatellite markers for a soricid water shrew, *Chimarrogale platycephalus*, and their successful use for individual identification」Genes & Genetic Systems

④令和2年11月

「福島県川内村におけるバンダイハコネサンショウウオ *Onychodactylus intermedius* 卵嚢の初記録」爬虫両棲類学会報令和2年11月5日

「和歌山潮岬沖から採集され飼育されたヤエギスとコクチャエギスの卵と仔稚魚の形態」魚類学会誌掲載

⑤令和2年12月20日

「福島県南部の砂浜域砕波帯に出現する仔稚魚」（学術論文 日本生物地理学会会報）

⑥令和2年12月23日

「北海道から採集された日本初記録の大型ミズムシ, *Arctocorisa carinata lansburii* Jansson, 1979」月刊むし

⑦令和2年12月

「First stage larva of the deep-sea giant shrimp *Sclerocrangon rex* (Decapoda, Caridea, Crangonidae) under laboratory conditions.」(学術論文 Crustacean Research2020 Vol. 49:9-14)

⑧令和3年2月6日

「「山・川・海」健全な水循環を体感するプロジェクト伝・伝馬船製作事業の実施について」日本動物園水族館教育研究会口頭発表

4 海洋文化推進事業

(1) シーラカンス保全プロジェクト

新型コロナウイルス感染症流行のため活動中断

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービスの向上）

① 券売・受付業務委託

券売・改札業務（専門業者委託で接客の質向上）

② 年間パスポート販売

・入館者数の増加を目的に販売

・通常販売、福島県子育て応援パスポート事業（協賛）やプレゼント等の割引販売

・販売実績

一般	4,432枚	(令和元年度対比	88.4%	584枚減)
小～高	1,388枚	(令和元年度対比	106.9%	90枚増)
計	5,820枚	(令和元年度対比	92.2%	494枚減)

(2) 広報宣伝事業

県内外に当館の魅力を一層アピールしながらイベント開催告知、誘客促進を行うとともに、首都圏も含め各種媒体で積極的な広報宣伝活動を展開し、パブリシティによる紹介の増加を図った。

① 各種媒体等を活用した広報

ア テレビ

CM放送

夏休み向け：県内4局、宮城2局 年末年始向け：県内1局

春休み向け：県内4局 天気フィラー（7月～3月）：県内1局

イ 新聞

地元3紙へ20周年告知および観光シーズンに広告掲載。

ウ 雑誌広告等

20周年関連の告知のため夏季を中心に情報及び広告掲載

エ 看板

福島空港に広報看板掲出

オ Web

SNSを活用した情報発信、夏季YouTube動画広告配信

カ その他

テレビ番組、Webメディアへの情報、素材提供

福島県広報枠を活用した広報（マスメディア、SNS、ポスター掲出）

② ポスター・パンフレット等の作成・活用

ア 館内案内リーフレット

・館内案内リーフレットを来館者に配布

・県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布

イ イベントチラシ・ポスター

・展示のリニューアルおよびイベント開催に合わせ、チラシ・ポスターを作成、県内外の公共施設、観光施設等に配布・掲出

・いわき市内への新聞折り込みを実施（冬季）

ウ 広報用チラシの作成

・年間を通した広報用にチラシを制作、移動水族館等で配布

・館内および移動水族館用にファミリー向けリーフレットを制作

③ 広報イベントの実施

広報を目的としたイベントの実施

ア おうちでアクアマリン

7月19日（日）～8月16日（日）の日曜日

開館20周年を記念して、施設の見どころや生き物の飼育の裏側を紹介するYoutube動画配信。

イ 流行魚大賞2020投票

令和2年10月15日（木）～11月8日（日）

展示している魚の人気投票。最も人気の高かった魚を流行魚大賞として
11月28日に発表。

- ④ キャラクター「権兵衛」PR
館内で来館者サービスや移動水族館や県外観光PR用の、新しいキャラクター製作。
- ⑤ 地域連携企画
海洋環境や文化について発信する企画を共同で実施。また、他の動物園・水族館、地域施設と連携しスタンプラリーやパネル展示など広報活動を実施。
- ・海と生き物とわたしたち（共催：東北マリンサイエンス拠点形成事業・ふくしま海ゴミ削減プロジェクト※福島中央テレビ協力）
 - ・世界水族館会議アフターイベント ウミガメへの手紙
 - ・SEA級グルメスタジアム（主催：海と日本プロジェクト※テレビユー福島協力）
 - ・海なぞ（主催：海なぞ実行員会、日本財団）
 - ・鉄道の日（主催：仙台うみの杜水族館）

(3) 観光誘致事業

① 地元旅館ホテル等の販売実績

ア 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

	・いわき市周辺の契約宿泊施設等限定の入館券を販売		
	・契約宿泊施設等・・・12か所（2組合、1グループ、9施設）		
一般	9,760枚	(令和元年度対比 39.4%)	14,985枚減)
小～高	2,004枚	(令和元年度対比 32.7%)	4,132枚減)
計	11,764枚	(令和元年度対比 38.1%)	19,117枚減)

イ 入館前売券販売

一般	5,886枚	(令和元年度対比 69.7%)	2,557枚減)
小～高	1,046枚	(令和元年度対比 57.9%)	760枚減)
計	6,932枚	(令和元年度対比 67.6%)	3,317枚減)

② 送客実績

ア 個人(通常料金)

一般	118,169人	(令和元年度対比 68.5%)	54,274人減)
小～高	21,573人	(令和元年度対比 53.9%)	18,464人減)
計	139,742人	(令和元年度対比 65.8%)	72,738人減)

イ 団体(団体料金)

件数	118件	(令和元年度対比 15.4%)	649件減)
一般	1,240人	(令和元年度対比 7.8%)	14,696人減)
小～高	2,005人	(令和元年度対比 77.9%)	139人減)
計	3,245人	(令和元年度対比 17.9%)	14,835人減)

ウ	契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)			
一般	9,618人	(令和元年度対比	39.6%	14,672人減)
小～高	2,019人	(令和元年度対比	34.7%	3,804人減)
計	11,637人	(令和元年度対比	38.6%	18,476人減)
エ	入館前売券			
一般	4,613人	(令和元年度対比	59.9%	3,089人減)
小～高	913人	(令和元年度対比	54.7%	737人減)
計	5,526人	(令和元年度対比	59.0%	3,844人減)
オ	年間パスポート			
一般	24,929人	(令和元年度対比	78.1%	6,995人減)
小～高	3,579人	(令和元年度対比	57.3%	2,666人減)
計	28,508人	(令和元年度対比	74.7%	9,661人減)
カ	年間パスポートの提示割引			
	・当館の年間パスポートの提示で割引			
	(1枚の提示で5名まで 一般200円引 小～高100円引)			
一般	1,519人	(令和元年度対比	61.4%	954人減)
小～高	382人	(令和元年度対比	60.9%	245人減)
計	1,901人	(令和元年度対比	61.3%	1,199人減)
キ	障害者			
一般	6,120人	(令和元年度対比	48.1%	6,601人減)
小～高	988人	(令和元年度対比	43.7%	1,272人減)
計	7,108人	(令和元年度対比	47.4%	7,873人減)
③	減免入館実績			
ア	学校団体			
件数	562件	(令和元年度対比	132.2%	137件増)
人数	29,451人	(令和元年度対比	127.7%	1,881人増)
イ	幼稚園又は保育園団体			
件数	101件	(令和元年度対比	49.3%	104件減)
人数	534人	(令和元年度対比	40.5%	786人減)
	※人数には、園児の数は含まない			
ウ	市町村主催団体			
件数	10件	(令和元年度対比	28.6%	25件減)
人数	147人	(令和元年度対比	15.2%	819人減)
エ	財団主催団体			
件数	3件	(令和元年度対比	150.0%	1件増)
人数	84人	(令和元年度対比	131.3%	20人増)
④	コンビニチケット			
	・コンビニチケット全体の入館者数			
	7,064人(=6,254人+810人)			
	(令和元年度対比	56.9%	5,348人減)	
ア	通常チケット(販売額 一般1,750円 小～高850円 通年販売)			
一般	4,843人	(令和元年度対比	76.3%	1,501人減)
小～高	1,411人	(令和元年度対比	50.7%	1,375人減)
計	6,254人	(令和元年度対比	68.5%	2,876人減)

イ ラブカップルチケット

(一般2人分のペアチケット 3,500円 期間限定販売)

ペア券 405枚 (令和元年度対比 24.9% 1,236枚減)

人数 810人 (令和元年度対比 24.9% 1,236枚減)

⑤ 助成券利用実績

・助成券全体の入館者数は755人

(令和元年度対比 69.3% 334人減)

ア 福島県職員助成券

一般 249人 (令和元年度対比 112.7% 28人増)

小～高 47人 (令和元年度対比 151.6% 16人増)

計 296人 (令和元年度対比 117.5% 44人増)

イ 福島県教職員助成券

一般 217人 (令和元年度対比 70.9% 89人減)

小～高 70人 (令和元年度対比 76.1% 22人減)

計 287人 (令和元年度対比 72.1% 111人減)

ウ 私学職員助成券

一般 125人 (令和元年度対比 38.7% 200人減)

小～高 36人 (令和元年度対比 43.4% 47人減)

計 161人 (令和元年度対比 39.5% 247人減)

エ 山形利用補助券

一般 6人 (令和元年度対比 27.3% 16人減)

小～高 5人 (令和元年度対比 55.6% 4人減)

計 11人 (令和元年度対比 35.9% 20人減)

⑥ 電子チケット

・令和2年度からの新規

一般 2,451人 (令和元年度実績なし)

小～高 560人 (令和元年度実績なし)

計 3,011人 (令和元年度実績なし)

(4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

① 小名浜まちづくり市民会議へ参画

会員として会議やイベントに積極的に参画

② 小名浜港まつりへの協賛

新型コロナウイルス感染症流行のため小名浜港まつりは中止

③ ばんえつ発見の旅サポートの連携事業

・磐越道沿線の12文化施設との連絡協議会は中止

・各館共通割引券作成は中止(令和元年度は、当館では772枚の利用)

④ いわき ら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテル、イオンモールとの連携

・毎月1回、上記担当者との協議会を開催

・3社共同チラシの作成。県内の観光施設等に配布

⑤ 委託販売(いわき ら・ら・ミュウ)

・入館前売券を、いわき ら・ら・ミュウ内インフォメーションにて委託販売

一 般	1, 4 6 1 枚	(令和元年度対比 103.8%	53 枚増)
小～高	2 5 0 枚	(令和元年度対比 102.9%	7 枚増)
計	1, 7 1 0 枚	(令和元年度対比 103.6%	60 枚増)

- ⑥ 近隣動物園・水族館との連携
 栃木・茨城・群馬・福島の動物園・水族館との連携事業「ファイト10」
 に協力（令和元年度はいなわしろカワセミ水族館が事務局）

6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

一般来館者を対象とした解説活動は感染症対策のため休止（R2.3.7～R2.11.23まで）。特に好評を得ているバックヤードツアーは、紹介パネルの掲出で補完した。

(2) 企画展開催事業

館内外における季節演出および催事等の実施

- ① 世界カワウソの日イベント特別展
 令和2年7月4日（土）～8月25日（火）
 ユーラシアカワウソの飼育開始からの10年を振り返る展示
- ② 七夕まつり
 令和2年7月4日（土）～令和2年8月25日（火）
 アクアマリンふくしまの展示生物をモチーフにした七夕飾りの展示
- ③ 20周年企画展
 「シーラカンスからメダカまで～さまざまな生き物が暮らす水の惑星『地球』」
 令和2年7月15日（水）～令和3年5月9日（日）
 シーラカンスの研究を基に生物の多様性について紹介する企画展
- ④ 20周年企画展「アクアマリンふくしまと歩んだ20年」
 令和2年7月15日（水）～令和2年10月11日（日）
 一般の方から当館で撮影した写真とエピソードを募集し、入選作を展示
- ⑤ 20周年企画展「卵から育てる水族館」
 令和2年8月1日（土）～令和2年11月3日（火・祝）
 当館の生物の飼育研究について紹介する企画展
- ⑥ 20周年企画 スペシャル対談「シーラカンスへの愛を語る」
 令和2年9月20日（日）
 当館のシーラカンス調査の取り組みについて対談形式で紹介するイベント
- ⑦ 小名浜国際環境芸術祭2020
 小名浜国際環境芸術祭は、2003年に開催されてから17回目を迎えた。
 大漁旗アート展を中心に、海をテーマとした様々な芸術作品を展示した。

○第13回小名浜国際大漁旗アート展 入賞作品展

期間：令和2年10月10日（土）～11月23日（月・祝）

○アーティストからの祝旗展

期間：令和2年10月10日（土）～11月23日（月・祝）

○キッズアート展 「地球を救え！エコモン」

期間：令和2年11月7日（土）～令和3年1月11日（月・祝）

○海からの贈り物 シーボーンアート展

コロナに負けるな！！ビーチクリーンファミリー

協力：NPO 日本渚の美術協会

期間：令和2年10月4日（日）～11月27日（金）

○第48回我ら海の子展（巡回絵画展）

主催：一般財団法人サークルクラブ協会 公益社団法人日本海洋少年団連盟

期間：令和2年10月10日（土）～11月8日（日）

○俳句の季（とき）コンテスト

期間：令和2年10月10日（土）～11月8日（日）

○海の男の盆栽展

協力：小名浜盆栽研究会

期間：令和2年10月31日（土）～11月3日（火・祝）

⑧ アクアマリンハロウィーン

令和2年10月17日（日）～10月31日（土）

魚のキャラクターのマスクシールの配布や撮影スポットを設置

⑨ アクアマリンクリスマス

開催期間：令和2年11月21日（土）～12月25日（金）

クリスマスツリーの点灯、写真展を開催

⑩ アクアマリンのお正月

開催期間：令和2年12月26日（土）～令和3年1月11日（月・祝）

干支の生き物展～丑～、バードショー、フォトスポット設置、すごろく配布

⑪ アクアマリンのひな祭り

令和3年2月11日（木・祝）～3月3日（水）

ちりめん細工教室「ままや」製作のつるし飾りの展示

⑫ お花見水族館

令和3年3月20日（土・祝）～4月4日（日）

桜金魚と春の花々の展示

(3) 展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

- ① 放射線に対する基礎的な情報や館内の環境放射線量、海水中の放射性物質などの情報を提供するとともに、当館が行っている調査研究について展示を行った。
- ② オセアニックギャラリーでは「いわき七浜捕鯨文化」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「地球環境の保全活動」「よみがえれ木戸川」「採集する。研究する。展示する。」について展示した。
- ③ 2階ホワイエの図書コーナー、えっぐのキッズコーナー、ボランティアーズステーションの図書やぬいぐるみ、観察用機材の管理を行った。
- ④ うみう展示（アクアマリンえっぐ）いわき照島生息地天然記念物指定
- ⑤ わくわく縄文の里において、日本産淡水生物、アカネズミ、コシジロヤマドリ、オオコノハズク、ホンドタヌキの展示を行った。
- ⑥ おまつり広場に設置した伝馬船工房において、伝馬船「地球3号」を製作した。
- ⑦ 炭焼き窯「たろうがま」において、炭焼きを行った。
- ⑧ 北の海の家・海鳥コーナーのアザラシ水槽壁面に穴を開け、陸上部の観察が出来るようにしたことで、ゴマフアザラシの育児を観覧できるようにした。

(4) 学校教育関連事業

学校を対象とした教育活動は、コロナ禍によって受入れ人数の制限や受入れ休止の措置をとったため、実施回数や対象人数は大幅に減少したが、感染症対策を施して可能な限りの対応を行なった。

① ガイダンス・館内学習

当館に来館した学校団体を対象に、施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。また、当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施した。

(93回実施、対象者数4,232名)

② 館外学習（ゲストティーチャー）

当財団の職員を学校へ派遣し、学校で授業を行った。

(14校、対象者746名)

③ 移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察と、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、レクチャーを行う移動水族館を実施した。(9校、対象者数607名)

④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をとおして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。なお、博物館学芸員実習はコロナウイルス感染拡大のため中止となった。

ア 中学校・高等学校生徒の職場体験 2回実施 対象生徒数27名

イ 大学生のインターンシップ、高校生のジュニアインターンシップ
1回実施 対象生徒、学生数 3名

⑤ 館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。(9回実施、対象者数168名)

⑥ 教員セミナー、教員研修の実施

8月に2日間、県内の教員を集めて、教科書に掲載されているヤゴの飼育についての講義を行なう教職員セミナー開催し、37名が参加した。

(5) 情報提供事業

① 情報コーナー

情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を行った。

② インターネットによる情報提供

ホームページを更新することにより、様々な情報提供を行った。最新生き物情報欄では生物の搬入搬出や繁殖出産の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。

また、SNSを活用して、生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供をほぼ毎日行った。

③ 機関誌の発行

水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMFNEWS」を年4回発行した(発行部数 5,000部/回)。

④ プレスリリース

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行うとともに、年間86件の投げ込みを実施した(※荒天、新型コロナウイルスによるイベント中止及び臨時休館の案内は6件)。テレビの取材放映が約30件、新聞の掲載は330件あった。

7 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

事前募集を行った参加者を対象として様々な体験活動を提供するスクールを開催した。コロナ禍のため、主に自宅で体験できるオンラインを利用したプログラムを実施した。例年人気の高い宿泊プログラムはコロナウイルス感染拡大のため中止となった。

・キッズプログラム：5回105名

(2) 缶詰づくり体験ほか

館内での体験プログラムは、感染症対策を考慮し密を避けて実施できる缶詰づくり体験、エサやり体験等を実施した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。感染症対策のため同時に参加できる人数を制限し、調理体験は密を避けるため中止とした。(参加者数8,508組)

8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進し、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。活動に際しては感染症予防に配慮し、規定活動時間の短縮や規定回数の免除など、コロナ禍においても無理なく活動できる体制をとり、例年実施してきた技術向上のための研修や新規ボランティア募集は見送りとした。

なお、アクアマリンふくしまボランティアの会は2020年で活動開始20周年を迎え、記念文集を発行した。

第1期～第22期ボランティア更新者	190名
第23期新規ボランティア登録者	受入れ休止
登録者数(令和3年3月31日現在)	190名

9 施設管理事業（施設管理・防災行動隊グループ）

（1）工事関係

① 電気設備工事

ア 夜間非常時の対応を安全に行うため、テント下投光器のスイッチを各所に新設した。

イ 館内連絡用トランシーバーの更新とともに、通信不良の箇所をなくすため、館内各所にアンテナ設備の設置を行った。

② 土木工事

ア 雨天対策として縄文管理棟から本館にかけてアルミ屋根通路の設置を行った。

イ アルミ屋根通路の設置に併せ植栽と芝の一部を撤去し、アスファルト舗装を施した。

ウ 来館者導線の確保として金魚館横の植栽を撤去し、新たに階段を設置した。併せて豪雨対策としてCAL職員出入口横植栽に側溝を設置し、職員通路に新たに水傾斜のための舗装を施した。

③ 設備工事

老朽化が進んだ水槽水温管理の自動調節計の更新を行った。

（2）省エネルギー・光熱費対策

ア 屋外散水栓及び鯉の川、葛の海の注水を工業用水へ切り替え、水道料金の低減を図った。

（3）その他

ア 人命救助のため、本館各フロアにAEDを設置した。

イ 産業廃棄物の仕分けを徹底し処分費の低減を図るとともに、一時置き場の整備を行い、整理整頓に努めた。

（4）主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア	ふくしま海洋科学館		
	・本館等敷地面積	56,189.52	m ²
	・本館延床面積	12,935.11	m ²
	・水生生物保全センター延床面積	925.09	m ²
	・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70	m ²
	・屋外トイレ面積	106.18	m ²
	・温室面積	52.54	m ²
	・わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56	m ²
イ	駐車場関係		
	・施設外駐車场面積	12,093.81	m ²
②	いわき市小名浜下神白字松下地内		
ア	海水取水・送水施設		
	・取水ポンプ棟延床面積	1棟	84.43 m ²
	・ろ過送水棟延床面積	1棟	180.04 m ²
	・取水管(管径 350mm)	91.10m	×2条
	・揚水管(管径 300/350mm)	146.00m	
	・送水管(管径 250mm)	2,885.04m	
③	和歌山県串本町		
ア	水生生物保全センター分館		
	・延床面積	180.00	m ²

(5) 来館者用駐車場の確保

繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。
駐車場は次のとおりである。

①	常時使用駐車場	
	・オアシス駐車場	282台(うち身障者用5台、バス15台)
	・公共駐車場	452台(うち身障者用17台)
②	臨時駐車場	977台(小名浜港湾建設事務所から随時借用する)
*	駐車場合計	1,711台

10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00	m ²
猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,000.00	m ²
猪苗代町淡水魚館	605.10	m ²

(2) 展示事業

- ① 福島県の淡水生物の展示
- ② 猪苗代情報パネル展示
- ③ カワセミ、カワガラス、キセキレイ展示
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽
- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑩ 企画展「サンショウウオ」、「かわうそ」、「天狗の隠れ蓑を着た生物たち」実施

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② 参加体験型（小川水槽）展示
- ③ 塗り絵コーナー、オリジナルエコバック作り、起き上がり小法師絵付け体験の他ワークショップコーナーの設置
- ④ 木育キッズコーナー「森のこぼこ」

(4) 情報発信

各種展示及びホームページやTwitter等のSNSを通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

(5) ボランティア活動

- ① 釣り堀運営支援
- ② 館内解説補助
- ③ 来館者の参加体験支援

II 収益事業

1 ミュージアムショップ運営

店舗名称 ウミノス・アクアマリンショップ JOHMON 2店舗にて商品販売。

売上額 127,256,782円

(令和元年度実績182,372,013円 前年度比69.7%)

2 レストランの運営

おいしい水族館「HAPPY OCEANS」をテーマとした資源量豊富な漁業資源の食材をオリジナルシーフードメニューとして開発し提供した。

(1) レストランアクアクロス

売上額 27,252,400円

(令和元年度年度実績42,932,500円 前年度比63.4%)

(2) 露店 The Roten Café Breeze

繁忙期にテラス軽食販売を実施

委託料収入 638,452円

(令和元年度実績 910,000円、前年度比 70.1%)

(3) 寿司処「潮目の海HAPPY OCEANS」

資源の持続的な利用をテーマに大水槽前で寿司を提供。

委託料収入 374,427円

(令和元年度実績 970,168円 前年度比 38.5%)

3 イブニングイベント事業

雑魚を美味しく食べる会 (名称・雑魚の会)

雑魚のブランド化及び地域交流の場を趣旨として開催。

令和2年度実績

開催回数 8回 (前年度実績 12回 (前年度比 67%))

参加者数 159人 (前年度実績 293人 (前年度比 54%))

4 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップ開設

飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。

売上額 7,178,560円

(令和元年度実績 7,740,600円前年度比 92.7%)